

平成21年度 総合的な学習の時間 全体計画

福山市立山野小学校

<p><地域・学校・児童の実態> 本校は、周囲を山々に囲まれ、豊かな自然、古からの歴史と伝統・文化が息づく、落ち着いた環境にある。また「子どもは地域の宝」として、地域からの学校に対する協力・支援体制は整っている。近年過疎と高齢化、少子化の波が押し寄せ、平成19年度より、本校は全学年複式学級となった。 児童は、山野の地域に古くから伝わる伝統文化「山野神義」を地域の方から指導を受け継承している。地域行事等での発表をとおし、高い評価を受けているが、「技能」は受け継いでいるものの、なぜ自分たちが「山野神義」を受け継ぎ、次代へ引き継ぐのか、その意義は受け止められていない。 学習面における児童実態は、基礎的・基本的な力は概ね定着しているが、活用力に個人差がある。また、思考力・判断力・表現力を育てる必要があるため、児童に言語技術を身につけさせ、各教科等の中で活用させることを通し、これらの力を育てる取り組みを継続している。</p>	<p><学校教育目標> 豊かな心を持ち 自ら学び たくましく生きる子どもの育成</p>	<p><総合的な学習の時間の目標> 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。</p>				
<p><保護者・地域・教職員の願い> ・基礎的・基本的な力の定着とその活用力及び、思考力・判断力・表現力の育成。 ・学年の発達段階にあった山野の地域・自然、歴史、伝統・文化を生かした学習内容の習得。 ・「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現」の学習活動の重視・郷土「山野」に誇りを持ち、将来にわたって郷土に貢献する力の育成</p>	<p><研究主題> 自分・学校・地域に誇りをもつ子どもの育成 ～ 郷土の人・自然・ものとのかかわり合いを通して ～</p>	<p><各教科等との関連> ① 地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（行事）との関連 国語：5年「インタビュー名人になろう」 社会：3年「昔から伝わる行事」 道徳：中「祭りだいこ」 高「親から子、そして孫へ」 行事：「ふるさと祭り」 ② 地域に残る歴史と人々の暮らし（歴史）との関連 国語：3年「おもしろいものみつけた」 5年「お祝い、お礼の手紙」 社会：3年「町たんけんをしよう」 6年「日本の歩み」 道徳：高「日本のたから」</p>				
<p><地域との連携> ○「山野神義」保存会の方々 ○山野民俗資料保存会の方々 ○きらり「山野」のみなさん ○山野ふるさと祭り実行委員会 ○水車と語りん祭実行委員会 ○山野公民館 ○山野町づくり協議会 ○山野老人クラブのみなさん ※ゲストティーチャーや交流対象として学習に参画</p>	<p><本校において定める 総合的な学習の時間の目標> 自分と地域の歴史、伝統・文化、地域の人々や事象とのかかわりについて探究することを通して、総合的に追究する方法を身につけ、そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決するとともに、地域と地域に生きる人々に対し、尊敬する心と誇りを持ち、自分と地域のこれからについて考え、よりよい生活を創りだそうとする。</p>	<p>③ 地域の活性化に取り組む人々や組織（発信・生き方）との関連 国語：4年「生活をみつめて」 5年「目的に応じた伝え方を考えよう」 6年「ガイドブックを作ろう」 社会：3年「昔から伝わる行事」 4年「地域の発展につくした人」 図工：「ふるさとを描こう」 家庭：6年「地域とのつながりを考えよう」 道徳：中「ふるさとのさくら」 外国語：「将来の夢を紹介しよう」 行事：「老人クラブとの交流会」 行事：「小中合同地域清掃」</p>				
<p><山野中学校との連携> ・山野中学校の「総合的な学習の時間」発表会へ5・6年生児童が参加し、中学校の総合的な学習の時間への見通しをもつと共に、意見交流の場をもつ。</p>	<p><育てようとする資質や能力及び態度> ○ 学習方法に関すること ・ 問題状況の中から自分自身の課題を発見し、設定する。 ・ 問題解決の方法や手順を考え、学習の見通しをもち、計画を立てる。 ・ 相手や目的に応じて、ことばの力を活用し、分かりやすくまとめ、表現する。 ○ 自分自身に関すること ・ 自分の学びを振り返り、自分の考えの変容を自覚する。 ・ 地域と自己の将来について考え、行動化する。 ○ 他者や社会とのかかわりに関すること ・ 異なる意見や他者の考えを受け入れながら、協同して課題を解決する。 ・ 地域の伝統・文化を継承し、地域の願いを受けとめながら、地域に貢献する活動ができる。</p>					
	<p><本校において定める内容> ○ 山野の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題</p>					
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="576 1261 623 1441">主な学習対象</td> <td data-bbox="623 1261 1504 1441"> ① 地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 ② 地域に残る歴史と人々の暮らし ③ 地域の活性化に取り組む人々や組織 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="576 1441 623 1950">主な学習事項</td> <td data-bbox="623 1441 1504 1950"> ① 「山野神義」とその歴史について、調査活動と聞き取り ・ 山野神義のもつ歴史と意義 ・ 山野神義保存会の方々の思いや願い ・ 山野神義を継承するために、自分たちができることの計画と取り組み ② 山野の歴史調査及び県立歴史博物館との連携 ・ 古代から残る歴史（古墳、奈良時代の木簡、城跡、金・銀・銅等の発掘跡など）について、フィールドワークによる調査活動から明らかになった郷土の姿 ・ 地域へ残る古い街並みと人々の暮らし ③ 山野の「よさ」と未来設計図 ・ 山野の伝統や文化、歴史の特色 ・ 山野の伝統や文化、歴史の継承に力を注ぐ人々の思い ・ 山野の一員として、地域の「よさ」を発信する活動や取り組み ・ 山野のこれからと自分自身の生き方について未来設計図によるまとめ </td> </tr> </table>	主な学習対象	① 地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 ② 地域に残る歴史と人々の暮らし ③ 地域の活性化に取り組む人々や組織	主な学習事項	① 「山野神義」とその歴史について、調査活動と聞き取り ・ 山野神義のもつ歴史と意義 ・ 山野神義保存会の方々の思いや願い ・ 山野神義を継承するために、自分たちができることの計画と取り組み ② 山野の歴史調査及び県立歴史博物館との連携 ・ 古代から残る歴史（古墳、奈良時代の木簡、城跡、金・銀・銅等の発掘跡など）について、フィールドワークによる調査活動から明らかになった郷土の姿 ・ 地域へ残る古い街並みと人々の暮らし ③ 山野の「よさ」と未来設計図 ・ 山野の伝統や文化、歴史の特色 ・ 山野の伝統や文化、歴史の継承に力を注ぐ人々の思い ・ 山野の一員として、地域の「よさ」を発信する活動や取り組み ・ 山野のこれからと自分自身の生き方について未来設計図によるまとめ	
主な学習対象	① 地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 ② 地域に残る歴史と人々の暮らし ③ 地域の活性化に取り組む人々や組織					
主な学習事項	① 「山野神義」とその歴史について、調査活動と聞き取り ・ 山野神義のもつ歴史と意義 ・ 山野神義保存会の方々の思いや願い ・ 山野神義を継承するために、自分たちができることの計画と取り組み ② 山野の歴史調査及び県立歴史博物館との連携 ・ 古代から残る歴史（古墳、奈良時代の木簡、城跡、金・銀・銅等の発掘跡など）について、フィールドワークによる調査活動から明らかになった郷土の姿 ・ 地域へ残る古い街並みと人々の暮らし ③ 山野の「よさ」と未来設計図 ・ 山野の伝統や文化、歴史の特色 ・ 山野の伝統や文化、歴史の継承に力を注ぐ人々の思い ・ 山野の一員として、地域の「よさ」を発信する活動や取り組み ・ 山野のこれからと自分自身の生き方について未来設計図によるまとめ					
<p><学習活動> 中学年 ・ 3・4学年合同で学習活動を進める。 ・ 山野地域の特色である自然や歴史、伝統文化に焦点を合わせ、学習内容を設定する。 ・ 町たんけんを学習の出発点とし、フィールドワークにより課題設定や情報収集したことを整理してまとめ、情報発信する。 ・ 町並み調べや地域で引き継がれている伝統行事の聞き取りを分析して、まとめる。 ・ 地域カルタづくり・カルタ大会を通して、学校や地域の人に「山野のよさ」の受け止めを発信し、地域の一員としての役割を自覚する。</p>	<p>高学年 ・ 5・6年合同で学習活動を進める。 ・ 山野の伝統や文化、歴史とそれらの継承に力を注ぐ人々に焦点を合わせ、学習内容を設定する。 ・ 昨年度作成したガイドブックをもとにフィールドワークを行い、新たな課題を設定し、情報収集を行い、まとめたことを「ガイドブックⅡ」として発信する。 ・ 地域行事へ主体的に参加し、地域の活性化につながる活動を企画・実行する。 ・ 山野のこれからと自分自身の生き方を見つめ、未来設計図を作る。</p>					
<p><指導方法> ・ 内容に迫るため、意図的・計画的に身近な地域の自然や文化、歴史と伝統、人とかかわる体験的な場を設定し、児童が追求したい課題を設定させる。 ・ 児童が課題を解決するための、追究の方法や内容について、表現や発信方法の情報を提示する。 ・ 課題解決までの学習計画及び、表現活動や発信までのスケジュールを児童自らが確認しながら学習活動に取り組むことができる環境を整える。 ・ 言語技術を活用した学習活動及び、道徳の時間との関連を図った学習活動を意図的・計画的に単元中へ位置づける。</p>	<p><学習の評価> ・ 「育てようとする資質や能力及び態度」の評価基準とその具体的な児童の姿を設定し、指導者が評価を行う。 ・ 評価基準をもとに、児童のノートやカード類への記述、授業の発言内容等から評価を行う。 ・ 児童の表現活動及び発信の内容について、保護者・地域等からの評価を求める。その際、評価の観点・評価基準をあらかじめ示すなど、評価者の評価力を高める。</p>					
<p><指導体制> ・ 地域の教育力を、スクールサポートボランティアとして、人材登録をする。 ・ 担任外の教職員による支援体制を充実させる。 ・ 学習サポート委員としての保護者による協力体制を充実させる。（校外での学習活動における補助員及び講師、専門家・講師等の情報提供 等）</p>						